

地域共創型広島空港アクセス強化事業 ～サイクリングを軸とした福山・尾道エリア観光消費拡大～

別紙 1

広島空港地域共創型乗合タクシー実証運行プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	広島県 空港振興課（広島空港アクセス路線拡充検討プロジェクトチーム事務局）
事業実施地域	広島県福山市、広島県尾道市、広島空港
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	商業・観光
共創パートナー	広島県、福山市、尾道市、広島国際空港株式会社、広島空港振興協議会、広島県観光連盟、福山市観光コンベンション協会、尾道市観光協会、しまなみジャパン、福山商工会議所、尾道商工会議所、福山ホテル旅館組合、広島県バス協会、中国バス、鞆鉄道、おのみちバス、航空会社（調整中）
運行形態	①地域共創型乗合タクシー（地域事業者と連携したサービスを付加） ②道路運送法第4条
運行主体	広島県タクシー協会（アサヒタクシー）、大平交通、広島空港タクシー運営協会（備三タクシー・双葉タクシー・白市交通 等）

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

- 2024年の訪日外国人数は年間3,600万人を超え、コロナ禍前の2019年を上回る過去最多を記録し、広島空港でも2024年の国際線利用者数はコロナ禍前の水準まで回復する一方で、広島空港と福山市及び尾道市を結ぶ空港アクセス路線の利用者数はコロナ禍前と比べて減少（福山路線が47%、尾道路線が86%減少）しており、その要因としては各路線の便数減少（福山路線は1/2、尾道路線は1/3に減少）が影響している。
- 福山・尾道の空港アクセス路線の便数減少に伴い、広島空港利用者の訪問先が、空港アクセスの便数がコロナ禍前の水準までほぼ回復している県西部（広島市内や宮島）に一層集中することにより、福山・尾道への訪問者数が減少し、その結果、福山・尾道の空港アクセス路線の収益性が悪化することで更に便数を減少しなければならないといった悪循環になり、昨今の運転手不足が、その悪循環に拍車をかけている。
- また、福山・尾道においては次の理由によりインバウンド需要を十分に取り込めていない。
- ・尾道は「しまなみ海道」という訪日外国人向けのキラコンテンツがあり観光地としての認知度が高いものの、宿泊施設や市内観光地等の地域公共交通が不足している。
 - ・福山はビジネス需要が多く宿泊施設が多いものの、訪日外国人の観光地としての認知度が低く、市内観光地等の地域公共交通も不足している。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

有・広島県地域公共交通ビジョン（38頁）

運輸局・運輸支局への事前相談

中国運輸局

令和5・6年度共創事業における補助有無

無

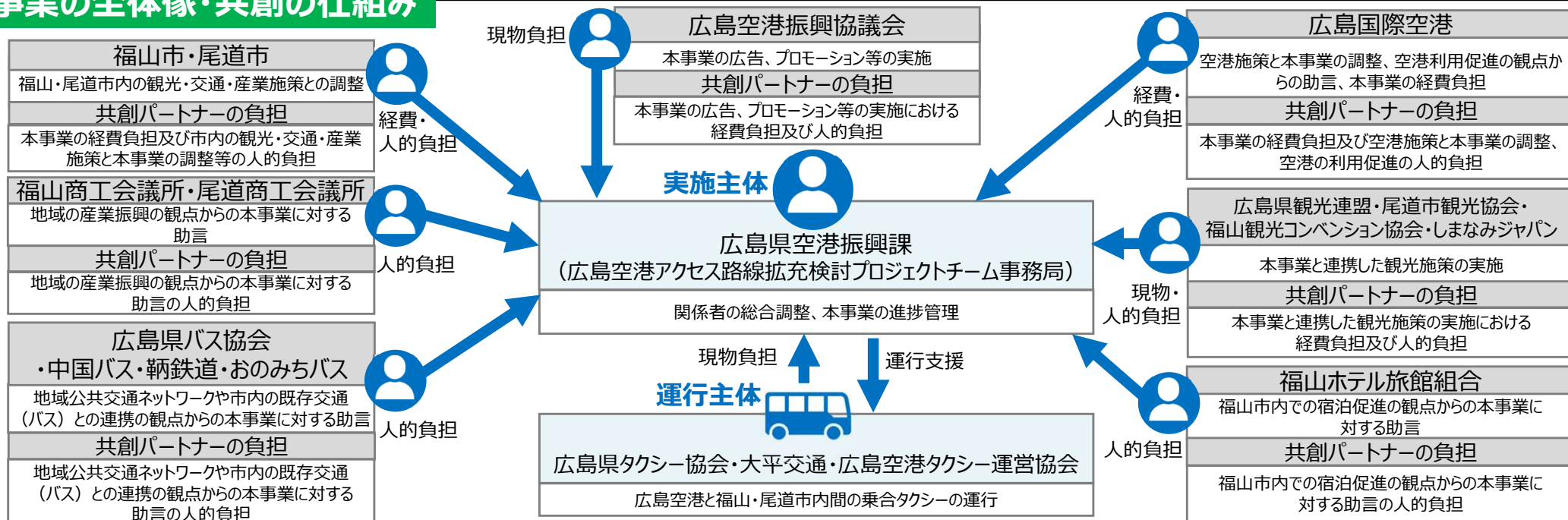
地域共創型広島空港アクセス強化事業

～サイクリングを軸とした福山・尾道エリア観光消費拡大～

別紙 1

広島空港地域共創型乗合タクシー実証運行プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

広島空港と福山市及び尾道市の空港アクセスを強化することで、訪日外国人をはじめとする観光客の県東部（福山・尾道）への誘客促進を図り、県西部（広島市・宮島）に集中する観光客の分散、県内のオーバーツーリズムの解消を目指す。また、福山・尾道への誘客促進を加速させるため、福山・尾道のもつ強みを組み合わせた魅力的な観光コンテンツを国内外にアピールすることで、福山・尾道での周遊を促し、福山・尾道での観光消費（宿泊・飲食等）や広島空港利用者の拡大を図るとともに、広島空港と福山・尾道を結ぶ新たな輸送手段（乗合タクシー）の定着を図る。

(地域の関係者との連携・協働)

海外でも人気の高い「サイクリング」をキーコンテンツとして、福山市の「しおまち海道」と尾道市の「しまなみ海道」を結ぶ新たなサイクリングコースを全面的に打ち出すことにより、福山・尾道間の周遊を促し、両市への誘客促進や観光消費の拡大を図る。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

〔広島空港－福山市内〕

現状として運行便数がコロナ禍前の半分になった影響もあり、航空便との接続における空白時間帯が複数存在しており、この時間帯における福山市内への空港アクセスの確保が課題。こうした中、今回の実証運行では、この空白時間帯を中心に、乗合タクシーにより広島空港と福山市内の間を定時定路線で運行する。また、付加サービスとして、目的地への直行サービスや宿泊施設等への手荷物配送サービス等を展開し、市内観光を促進する。

〔広島空港－尾道市内〕

現状として1社による限られた乗務員や車両での乗合タクシーの運行のため、1日4往復のダイヤの中で予約が入った便のみ運行するデマンド運行を余儀なくされており、こうした運行方法による需要の取りこぼしへの対策が課題。こうした中、今回の実証運行では、複数のタクシー事業者が乗合タクシーを共同で運行することにより、これまで乗務員不足や車両不足で実施できなかった定時定路線での運行や増便を図るとともに、電話予約も可能な受付体制を整備する。また、付加サービスとして、目的地への直行サービスや宿泊施設等への手荷物配送サービス等を展開し、市内観光を促進する。

地域共創型広島空港アクセス強化事業

～サイクリングを軸とした福山・尾道エリア観光消費拡大～

別紙 1

広島空港地域共創型乗合タクシー実証運行プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

■ 宿泊施設や観光事業者との共創により新たなサービス（目的地への直行、宿泊施設等への自転車・手荷物配送等）を付加した地域共創型乗合タクシーの実証運行を実施

① 現在の空白時間帯を中心とした乗合タクシーの運行（広島空港⇄福山市内、広島空港⇄尾道市内、定時定路線）

② 複数のタクシー事業者による共同運行（尾道路線のみ）

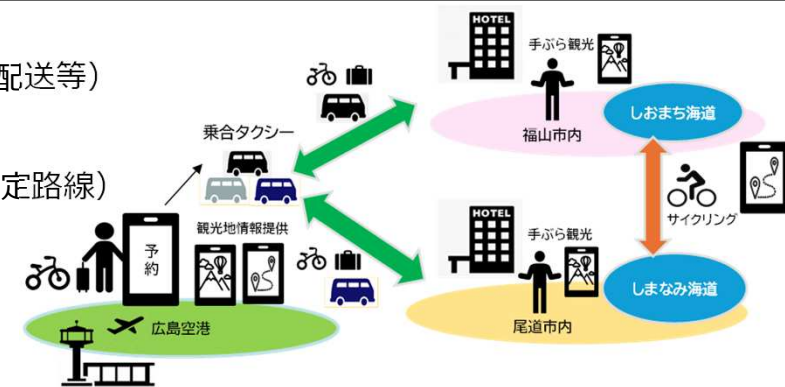
・ 単一業者では乗務員不足や車両不足で実施できなかった定時定路線での運行

・ 電話予約可能な受付体制を整備（統合受付）

③ 観光・サイクリスト向け付加サービス（目的地への直行、宿泊施設等への自転車・手荷物配送等）

④ 福山・尾道周遊（サイクリング）施策（福山市の「しまち海道」と尾道市の「しまなみ海道」を走行するサイクリングコースのプロモーション等）

《例：多言語ルートMAP作成、動画制作、イベント、スタンプラリー、キャンペーン、ネット広告、OTA連携、公共交通間連携（バス・旅客船等の割引）等》



取組内容		5～6月	7～9月	10～12月	1～3月
事業 マネジメント	■ 県 ■ 市 ■ 広島空港	事業採択			実績報告
		補助金交付申請			
		事業マネジメント 業務委託	事業マネジメント		
					報告書 整理
乗合タクシー 実証運行	■ 運行 事業者	運行方法等の検討・調整			
			運行認可申請		
			各種運行準備 (運行システム導入等)	実証運行	
					結果の とりまとめ・ 検証
福山・尾道 周遊促進	■ 観光協会	周遊施策（サイクリング）の検討・調整			
			周遊施策（サイクリング）の実施		結果の とりまとめ・ 検証
広告・ プロモーション	■ 空港振興 協議会	広告・プロモーション 業務委託	広告・プロモーションの実施		
関係者会議	■ 全関係者		事業内容 の報告		事業結果 の報告

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

- 実証運行最終月（2026.2月）の乗合タクシー（福山）の平均利用者数：3.5人／便※
- 実証運行最終月（2026.2月）の乗合タクシー（尾道）の平均利用者数：2.8人／便※
- ※路線採算ライン

(地域全体に及ぶと想定される効果)

- 実証運行期間中の広島空港の利用者数：前年同期比＋7%
- 実証運行期間中の福山市の観光客数：前年同期比＋7%
- 実証運行期間中の尾道市の観光客数：前年同期比＋7%

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	○	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
○	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

- 実証運行期間中での各路線の黒字化（路線採算ライン）の達成を図り、実証運行後は運行事業者により自走できる路線へと昇華させる。
（コロナ禍前（減便前）の直行路線の利用実績や昨今の訪日外国人の増加傾向等を踏まえると、各路線とも潜在需要は高いものと考えられる）
- 次年度も引き続き、広島空港振興協議会による各路線の広告、プロモーションを実施する。

資金面	本事業に必要な経費について、県、市、広島国際空港(株)が、それぞれの負担割合に応じて予算を確保し、本プラットフォームの事務局である任意団体（広島空港アクセス路線拡充検討プロジェクトチーム）に対して払い込みを行う。
人材面（運転手の確保）	実証運行については本プラットフォームの構成員でもある運行事業者が担う。